

先日、二上山の山麓部で出会った「タチツボスミレ」と「ピロウドツリアブ」を紹介しました。

そして今回、再び彼らとの出会いを求めて、**岩湧山**の山麓部に出かけてみました。

写真 : ピロウドツリアブ

石にとまったところを接写！
大きく写っていますが、体長はわずか10mm程度です。
尖った長い口吻で花蜜を吸うのですね。

写真 : スミレの花で吸蜜するピロウドツリアブ

巧みにホバリングしながら、長い口吻を使い、花の奥の蜜を吸っていました。

写真 ~ : スミレの花

それぞれ種類は異なると思うのですが、種名までは分かりません...

写真 : ジロボウエンゴサク

これはスミレの仲間ではなく、ケシ科キケマン属に分類されています。
名前に「次郎坊」とありますが、では「太郎坊」の付く種もあるのでしょうか？
実は「太郎坊」とは「スミレ」のことを指していたようです。
昔、子どもたちがスミレを「太郎坊」、この花を「次郎坊」と呼んで、双方の花の「距」(花の後ろに飛び出している出っ張り)を互いに引っかけて引っ張り合い、ちぎれた方が負け、という花相撲遊びがあったそうで、それが命名の理由なのでしょうね。
このように、「次郎坊」は種名に採用されたのですが、一方の「太郎坊」は地方名(伊勢地方)の域を出なかったようです。
ちなみに、「エンゴサク」の方も変わった名前ですが、こちらは中国名(漢方薬名)の「延胡索」のことです。















